



編集

豊平区役所総務企画課広聴係

〒062-8612

豊平区平岸6条10丁目

☎822-2407 ㊚813-3603

## とよひら元気印 (第71回)

わたなべ ひでお  
**渡邊 秀雄** さん (85)

全日本短歌大会 文部科学大臣賞受賞 豊平区平岸在住

### 北海道の情景を短歌に詠って

「海霧はれて クナシリ見ゆる 午前四時 二百頭の牛 牧へ追ひ込む」  
「山ほどに 牧草刈りて 帰る夕 エゾセンニュウの 鳴きこゑを聴く」  
道東地方の酪農作業の情景を詠った2首一組の短歌。渡邊秀雄さんが実体験をもとにして詠んだこの作品が、短歌の全国コンクール「第33回全日本短歌大会」において、最高賞となる文部科学大臣賞に選ばれました。

「20年ほど前、中標津町で酪農を営む友人の家に泊まって牛飼いを手伝った時の体験を詠んだんです」というこの短歌。「このコンクールで自分の実力を試してみたくて、文法や言葉遣いに慎重に気を配りながら半年以上も作品を練り上げました」と、渡邊さんは作品にかけた意気込みを振り返ります。

受賞の一報が届いたときは、「とてもうれしかったです。北海道の酪農の厳しさや風土に生きる人の心が、全国の皆さんに理解してもらえたのだと思うと感動しました」と目を細めます。



◀今年9月15日に行われた授賞式の様子



▼自慢のご家族と一緒に

### 31文字の中に思いを書きとめる

今では年に300首を超える短歌を詠むという渡邊さんが本格的に取り組み始めたのは、勤務先を退職した昭和57年ごろ。「そのころは趣味の登山で道内の山々を歩いていましたが、年を重ねても気軽に続けられる趣味はないかと探しているうちに、筆記用具があればいつでも楽しめる短歌に巡り合いました」と当時を振り返ります。

自らの作風については、「自然描写や風土、そこに生きている人々などを題材にするのが好き」と笑顔で話します。登山の経験を生かして自然を題材にした歌を多く詠みますが、「日々の生活や体験の中で思いついた言葉も記録するために、普段からメモとペンは肌身離さず持ち歩いているんですよ」。

短歌の面白さを「31文字の中に、自分の思い、家族、自然など、何でも詠うことができる」と語る渡邊さん。「作品は、人生そのものを書きとめる、一つの『自分史』だと思っています」。さまざまな思いを自分史につづるべく、今日も短歌を詠み続けます。

豊平区の人口・世帯数

人口	215,694人	(- 71)
男	100,482人	(- 42)
女	115,212人	(- 29)
世帯数	110,717世帯	(+ 29)

(10月1日現在。( )内は前月比)

毎月14日は  
とよひらの日

豊平区ホームページ「夢ひらく 花ひらく とよひらく」  
<http://www.city.sapporo.jp/toyohira/>

豊平区広報番組「豊平インフォメーション」  
FMアップル76.5MHz 毎週木曜日15時～  
※11月22日は、区役所からの公開生放送です。  
内容は「除雪への取り組みのお知らせ」です。

